

月植替てよし、五六寸間を、おいて植、梅雨の後人糞を澆へし、十月十一月に根を掘採、米泔水に少
ひたし、土氣を去、毎日に乾、壺に入れて貯べし、湯に入れて干、バ性味薄くなるなり、
〔延喜式三十七〕諸國進年料雜藥

大和國卅八種略○中澤寫、當歸各四斤、伊賀國廿三種略○中當歸十一斤略○下

〔和漢三才圖會九十三〕當歸略○中

按當歸出於山城久世郡者最佳、大和之產次之、以花葉似芹、名山斬前即古

〔廣益國產考〕國産となるべき物を左にあぐ

當歸 薄地につくりて利を得るもの也、大和の吉野郡、宇多郡に作りて、多くいだす也、

〔草木六部耕種法四〕當歸需根、當歸白芷ヲ作ル法

當歸ハ古來大和國ニテ能ク作レリ、今ハ仙臺ヨリ此物ヲ出スコト頗多シ、當歸モ能ク作ルトキ
ハ、一步ニテ六斤宛ハ出來ル者ニテ、一步六斤ナレバ一段千八百斤ナリ、此ヲ金一兩百二十斤ニ
賣ト雖ドモ、一段十五金ノ産ナリ、

〔新撰字鏡〕草、蛇床比留、米又旭、床又思益、又繩毒、又墻靡、蛇

〔本草和名七〕蛇床子、一名蛇粟、一名蛇米、一名虺床、楊玄操音、一名思益、一名繩毒、一名棗棘、一名墻靡、

一名許、仁謂音香子、一名蛇珠、一名顛棘、一名蛇肝、一名石來、一名秣粟、一名馬床、已上六名、和名比留

无之呂、一名波末世利。

〔倭名類聚抄二十〕蛇床子 本草云、蛇床子、和名比流

〔箋注倭名類聚抄十〕爾雅、肝虺牀、郭注云、蛇牀也、淮南說林訓云、蛇牀似麋蕪而不能芳、陶注、花葉正
似麋蕪、蜀本圖經云、似小葉芎藭花、白子如黍粒、黃白色、生下濕地、圖經曰、三月生、苗高三二尺、葉青
碎作叢、似蒿枝、每枝上有花頭百餘、結同一窠、似馬芹類、四五月開白花、又似繖狀、子黃褐色、如黍米

蛇床